

**・ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標**

### 【建学の精神、教育理念について】

(1) まず、建学の精神・教育理念を記述し、その建学の精神・理念が意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述してください。

大分短期大学は初代学長の平松克己により昭和39年英語科が設置され、昭和42年に園芸科が設置された。

“意志あるところ道あり”(Where there's a will, there's a way)。これは大分短期大学の建学の志であり、教学のモットーでもある。

教育理念は「実学主義」を重んじ、豊かな発想力(think globally)と実践力(act locally)を磨くことが根幹で、継続的に学習するために、PDCA サイクルを基準とし、計画(Plan)-実行(Do)-評価(Check)-改善(Act)を通して、着実な成果の達成を図っている。

(2) 建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

入学式において学長が学長式辞のなかで建学の精神についてその意義を述べる。また、卒業式の式辞で社会人となる卒業生に対しても意義を確認している。教職員は講演や挨拶に際してこれらの精神や理念に言及し、機会あるごとに教職員と学生の意思統一を図っている。また、建学の精神・教育理念を入学式後のオリエンテーションで講話を行い、前期、後期の各履修説明会で詳しく説明している。

### 【教育目的、教育目標】

(1) それぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

本学の教育目的は、学則の第1条に示すとおり、「高等普通教育の基礎の上にさらに広い一般教育と専門的学識を修め、深い知識と豊かな人間性を養い、もって国家及び地域社会の発展に貢献しうる社会人の育成を目的とする」と定めている。具体的には、農業および園芸が人間生活と国家・社会の維持・発展にとって不可欠な産業であることを理解し、将来、次のような分野で活躍を志す人材の育成をすることとしている。

安心・安全な食料の生産、加工、販売に従事する人

人間の生活の質(QOL)の向上に有効な生物生産とその利用・加工法の開発に従事する人

地域社会の健全な環境の保全と構築および活性化に有効な生産物の再発見と開発に従事する人

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標は、現在ではどのような方法で学生や教職員に周知しているかを記述して下さい。

学生に対しては授業を通して周知させると共に、シラバス、オリエンテーション、前期後期の各履修説明会で行っている。教職員に対しては教授会、連絡会などを通して周知させている。

### 【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直しや教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また、点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学の精神は基本的に不変であるが、変化する社会に対応するためにカリキュラムの改正、取得資格等の見直しが必要となる。自己点検・評価委員会を組織し、毎年定期的に全学点検をしている。点検については特に学生からのアンケートによる「学生による授業評価」を重

視し、行っている。また、前期、後期の開始前に行われる教員のカリキュラム会議でも評価点検を行っている。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直しや教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会又は短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

建学の精神や教育理念の見直しは教授会の審議を経て、学園の組織である「評議委員会」「理事会」で審議事項として提案され、承認される。教育目的や教育目標の点検は自己点検・評価委員会で議論され、細かな見直しであれば教授会だけで審議され、学生や教職員に周知することになっている。

#### 【特記事項について】

(1) この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念・教育目的や教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。

特別な取り組みは行っていない。

(2) 特別な事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

## ・教育の内容

## 【教育課程について】

(1) 当該学科等の現在の教育課程を記載して下さい。なお、学科等内に幾つかの履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合にはコースごとに記載して下さい。

園芸科では、「農学コース」、「園芸コース」、「編入学コース」の3つのコースを設置している。「編入学コース」は、「農学コース」と「園芸コース」に併設されている。「農学コース」には、さらに「農学専攻」と「林学専攻」とがある。

「農学コース」は、本学の園芸科の特徴を活かして農学・林学全般における専門知識を学び、身近な地域環境のあり方を考えながら、地球環境問題の重大さを学び、そして、地域社会に貢献できる農林関係分野の公務員（国家公務員・地方公務員）を目指す。

「園芸コース」は、生産園芸（花卉・野菜・果樹）・作物・フラワー装飾・造園・ガーデニング・園芸療法・バイオテクノロジーについての専門知識と技能を学び、地域社会に貢献できる農林関係分野の専門技術者を目指す。

「編入学コース」は、4年制大学編入学を目指す。

なお、単位認定科目の他に、「資格取得講座」、「公務員・就職・4年制大学編入学対策講座」といった目的別サポートカリキュラムを設けている。

## 園芸科 教育課程

(平成21年度5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単 位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
一般教養科目	一般教育科目	社会心理				2					21	
		情報処理				1					18	
		環境化学					2				11	
	外国語科目	英語					2				26	
		英語					2				20	
		英会話					1				15	
	保健体育科目	英会話					1				11	
		心体スポーツ科学					1				21	
	専門科目	心体スポーツ科学					1				25	
園芸総論					2					51		
花卉園芸学総論					2					51		
野菜園芸学総論					2					51		
果樹園芸学総論					2					51		
造園学総論					2					51		
作物学					2					51		
園芸学実験実習					2					51(4)		
園芸学実験実習					2					51(4)		
園芸学実験実習					2					27(5)		
園芸学実験実習					2					27(5)		
特別講義					2					51		
特別講義					2					27		
園芸研究					4					27(7)		
人・農業・園芸・環境関係論				1					51			

キャリアアップセミナー				1					51	
キャリアアップセミナー				1					-	H20 年度新設2年生科目
野外調査				1					51	
海外研修					1				22	H20 年度入学生より選択科目
植物生理学					2				42	
植物生態学					2				10	
栽培学汎論					2				42	
遺伝育種学					2				16	
土壌肥料学					2				48	
植物病理学					2				24	
応用昆虫					2				30	
樹木学					2				21	
園芸療法					2				42	
園芸療法					2				21	
園芸材料学					2				11	
施設園芸学					2				16	
切り花					2				6	
鉢物					2				5	
花卉装飾学					2				14	
野菜茎葉菜類					2				22	
野菜果菜類					2				25	
野菜根菜類					2				12	
常緑果樹					2				19	
落葉果樹					2				11	
落葉果樹					2				2	
造園材料計画学					2				11	
造園施工管理学					2				5	
造園維持管理学					2				10	
農業機械学					2				16	
農業経済学					2				18	
造林学					2				21	
林業経営					2				26	
林産加工					2				7	
林業土木					2				6	
測量学					2				3	
樹木医学					2				21	
環境保全学					2				13	
介護理論					2				20	
作業療法					2				15	
理学療法					2				20	
障害者福祉					2				4	
老人福祉					2				5	
地被植物学					2				4	
飼料作物学					2				8	
香りの心理					2				13	
ガーデニング概論					2				50	
デッサン					1				25	
農薬学					2				47	

畜産学				2				4	
畜産学				2				5	
色彩学演習				1				18	
グラフィック演習				1				5	H21年度より廃止
CAD演習				1				5	
生物統計学				1				7	
フラワー演習				1				19	
フラワー演習				1				10	
フラワー演習				1				6	
フラワー演習				1				6	
ガーデンデザイン論				1				21	
ガーデンデザイン論				1				19	
ガーデンデザイン論				1				5	H21年度より廃止
ガーデンデザイン演習				1				17	
ガーデンデザイン演習				1				19	
ガーデンデザイン演習				1				5	H21年度より廃止
ガーデンプランニング論				1				4	H21年度より廃止
ガーデンプランニング演習				1				4	H21年度より廃止
花卉装飾学演習				1				14	
造園演習				1				8	
室内園芸装飾演習				1				9	
生花				1				25	
生花				1				23	
生花				1				12	
生花				1				12	
造園製図				1				9	
造園製図				1				6	
測量学演習				1				8	
管理実習				1				6	
管理実習				1				31	
園芸バイオ実習				1				5	
野外調査				1				27	
自主研究				1				0	
ボランティア実践				1				0	
学外実習(インターンシップ)				1				3	

## 各コース別 履修科目ガイドライン

園芸コース	園芸栽培	花卉ゾーン	花卉園芸学総論 農業機械学	切り花 農業経済学	鉢物 応用昆虫	花卉装飾学 植物病理学	農薬学 環境保全学	園芸材料学 管理実習	施設園芸学 生物統計学
		野菜ゾーン	野菜園芸学総論 農業機械学	野菜茎葉菜類 農業経済学	野菜果菜類 応用昆虫	野菜根菜類 植物病理学	農薬学 環境保全学	園芸材料学 管理実習	施設園芸学 生物統計学
		果樹ゾーン	果樹園芸学総論 農業機械学	常緑果樹 農業経済学	落葉果樹 応用昆虫	落葉果樹 植物病理学	農薬学 環境保全学	園芸材料学 管理実習	施設園芸学 生物統計学
	花卉装飾ゾーン	花卉園芸学総論 フラワー演習 ~	花卉装飾学 ~	花卉装飾学演習 生花 ~	デッサン	色彩学演習	CAD 演習		
	造園ゾーン	造園学総論 植物生理学 ガーデンデザイン論	樹木学 植物生態学 ガーデンデザイン演習	造園材料計画学 測量学 生物統計学	造園施工管理学 測量学演習 地被植物学	造園維持管理学	造園製図 樹木医学		
	園芸療法ゾーン	介護理論 ガーデニング概論	作業療法	理学療法 老人福祉	園芸療法 障害者福祉	園芸療法 生物統計学	香りの心理		
	農学コース	農学専攻ゾーン	作物学 農業経済学	植物生理学 応用昆虫	植物生態学 植物病理学	遺伝育種学 畜産学	栽培学汎論	農業機械学	生物統計学
林学専攻ゾーン		造林学 植物生理学	林業経営 植物生態学	林業政策 樹木学	林産加工 樹木医学	林業土木	測量学	測量学演習	

## 目的別サポートカリキュラム

資格取得講座	室内園芸装飾技能士・造園技能士・フラワー装飾技能士夏期集中講座 毒物劇物取扱者受験準備対策講座 測量士補受験講座 造園施工管理技士受験講座
公務員・就職・4年制大学編入学講座	夏期・冬期・春期受験対策講座 前期・後期受験対策講座

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置について、特に強調したいことがあれば記述して下さい。

### 教養教育の取組み

一般教養科目として、一般教育科目(3科目5単位) 外国語科目(4科目6単位) 保健体育科目(2科目2単位)を開講している。いずれの科目も選択科目となっている。

また、前期・後期の放課後と夏期・冬期・春期休暇中には「公務員・就職・4年制大学編入学講座」が開講され、国語・英語・社会・理科・数学の各一般教養及び、一般常識に関する科目が受講できるようになっている。

## 専門教育の内容

教育分野は教育課程表に示すように、生産園芸（花卉・野菜・果樹）・作物・林業・フラワー装飾・造園・ガーデニング・園芸療法・バイオテクノロジー・畜産・環境まで幅広く開講している。

平成20年度は、社会人として活躍できる基礎的な態度（マナー）生活基礎（整理・整頓・清潔・清掃・躰）言葉遣い、専門基礎知識、及び就職対応力を総合的に習得させることを目的として「キャリアアップセミナー」を新たに開講した。

なお、本学はゼミナール体制をとっており、学生は入学後早い時期に（概ね4月末までに）必ずゼミナールに所属することになっている。ゼミナールでは1人1課題で卒業までの2年間、専門分野に関する研究テーマを選定し、担当教員の指導を受けながら自主的に各々の研究に取り組む。各々の研究は、1年次の3月と2年次の10月にポスターセッションを行い、また、2年次の4月と12月には学生・教員全員参加の発表会を行っている。

夏期・冬期・春期休暇中には「公務員・就職・4年制大学編入学講座」が開講され、農業土木・畜産・果樹・野菜・花卉・作物・農業経済・栽培汎論・林産加工・林業経営・林業土木・育林に関する専門科目が受講できるようになっている。1年次に公務員試験を受験する学生にとっては、早い時期から専門科目が学習できるようになっている。ただし、単位は認定されない。

## 授業形態のバランス

教養科目と専門科目における講義科目数は60、演習実習科目数は39である。カリキュラム全般としては、講義・演習・実習のバランスはとれている。

## 必修・選択のバランス

教育目標にあるように、「幅広い園芸の分野における基礎的知識と技術を修得させる」観点から、基礎的な園芸学総論や花卉園芸学総論、野菜園芸学総論、造園学総論などの基礎的な科目については必修としている。選択科目は、学生の自主性を尊重し、自分自身の進路や興味に応じて自由に科目が選択できるように配慮している。必修・選択のバランスは概ね適切であると考えている。

## 授業のクラス規模

本学は教育目標に「少人数教育」を掲げており、授業は必修科目でも最大1学年の定員数となっている。また、学生のゼミナールへの所属人数については学生の希望を尊重しながら、ゼミナール所属学生数の不均衡ができるだけないように配慮している。

## 専任教員の配置

必修科目については、基本的に専任教員が担当している。必修科目は園芸コース、農学コースともに17科目であるが、このうち専任教員が担当しているのは15科目である。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格と履修方法

資格・免許名	履修方法(科目)	認定機関名
園芸療法士	必修科目4科目8単位 園芸学総論、園芸療法、 園芸実験実習、園芸実験実習 選択科目(8科目16単位以上) 介護理論、作業療法、理学療法、 香りの心理、社会心理学、 障害者福祉、老人福祉 園芸療法、ガーデニング概論、 園芸実験実習、園芸実験実習、 色彩学演習、花卉装飾学演習	全国大学実務教育協会認定
生活園芸士	必修科目4科目8単位 園芸学総論、ガーデニング概論、 園芸実験実習、園芸実験実習 選択科目(6科目12単位以上) 土壌肥料学、植物病理学、 花卉園芸学総論、野菜園芸学総論、 果樹園芸学総論、造園維持管理学、 園芸実験実習、園芸実験実習	全国大学実務教育協会認定
樹木医補	講義科目は8分野(樹木の分類、樹木の 生態・生理、立地土壌、植物病理、昆虫・ 動物、樹木医学一般、農薬学、造園学一般) のうち6分野14単位を修得すること 実験実習分野は4分野以上を修得する こと	(財)日本緑化センター認定
フラワーデザイナー	花卉園芸学総論、花卉装飾学、花卉装飾学 演習の単位を修得し、成績が優秀な者	本学認定
飯田深雪アートフラワー (専修)	フラワー演習、、、の単位を修得 し、専修免状を希望する者	飯田深雪アートフラワー認定
生花小原流准教授免状	生花、、、の単位を修得し、小原 流准教授免状を希望する者	小原流認定

(注) 履修方法(科目)欄の科目名についている数字は単位数を示す。

教育課程に関係なく取得できる免許・資格（資格取得指導を行っている免許・資格）

資格・免許名
フラワー装飾技能士 2・3 級
室内園芸装飾技能士 2・2 級
造園技能士 2・3 級
造園施工管理技士
危険物取扱者
毒劇物取扱責任者
測量士補

（４）選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧や、ガイダンス等どのように指導しているか、また、学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

授業科目、選択科目の選択については、４月のオリエンテーション、９月の後期履修ガイダンスで説明指導している。また、履修届は学生が直接ゼミナール担当教員に相談の上、提出することになっており、相談・提出時には一人ひとりきめ細かく指導している。

（５）卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付など）を示して下さい。また、学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

#### 卒業要件単位数等

本学の卒業要件は、学則第 13 条及び、履修規則第 3 条に定める通り、「通算して 2 年以上在学し、園芸コース、農学コース共に 62 単位以上の単位を修得した者」が卒業できる。

#### 除籍の対象

- ・ 性行不良で改善の見込みがない者、学力劣等で成業の見込みがない者、出席常でない者、秩序を乱し、学生としての本分に反した者（学則第 59 条）
- ・ 修業年限を超えた者（学則第 4 条）
- ・ 授業料を納付しない者（学則第 42 条）

#### 成業の見込みがない者（学則第 19 条）

- ・ 修業年限を超えた者（学則第 12 条）
- ・ 授業料を納付しない者（学則第 26 条）

これらの卒業要件については、４月のオリエンテーション、９月の後期履修ガイダンスで説明指導し周知徹底を図っている。

(6) 教育課程の見直し、改善について、当該学科等の現状を記述して下さい。なお、この項はできれば当該学科等の責任者(学科長、学科主任等)が記述して下さい。

近年、4年制大学への編入学希望者が増加していることを踏まえ、現在、園芸科に設置している園芸コースと農学コースの2つのコースに併設型の編入学コースを設置し、平成20年度入学生の学生募集・入試を行った。新コース設置に際しては、ただ単に受験対策のみに重点を置くのではなく、短期大学の役割である人間教育も大切にしていこう留意している。

### 【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法を記述して下さい。

全授業科目のシラバスが作成されている。シラバスは、科目毎に1ページを配当し、授業科目名、単位数、授業の目的と到達目標、授業の方法、授業を受けるにあたっての心構え、効果の評価方法、テキスト、授業計画(内容・ねらい)の欄が設けられている。

シラバスは4月のオリエンテーションの際に学生全員に配布し、教務ガイダンス時に履修説明をしている。履修届けは講義開始前日までにゼミナール担当教員に相談の上、提出することになっており、相談・提出時には一人ひとりきめ細かく指導している。なお、安易な科目選択をせず、将来の自分の進路にあわせて熟慮して選択するよう、履修規則第6条についても触れ、受講届けを提出した後の履修科目の変更、追加、取り消しは原則として認められないことを説明している。よって、ガイダンス時のゼミナール教員との個別相談は学生にとって非常に重要な時間となっている。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について(学科長等見解)

講義開始前の履修ガイダンスを実施したにもかかわらず、履修届けを提出したのち、講義開始後授業を受講しない学生がいくらか見受けられる。履修ガイダンスの時間の取り方、指導方法について検討する必要性がある。

授業への出席状況、学業への意欲は概ね良好であると考えているが、中には欠席が若干多い学生も見受けられる。学生との面談は定期的に行っているが、これ以外にも欠席の多い学生については随時ゼミナール担当教員や教務担当教員が対応に当たっている。

### 【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。

本学では前期・後期の試験時と、前期末及び後期末に学生による授業評価アンケートを定期的実施している。試験時に実施するアンケートは各担当教員が実施し、結果をまとめて教務に提出することになっている。また、前期末及び後期末に実施するアンケートは教務が実施し評価結果をまとめている。教務が実施するアンケート調査は、各教員に公表・フィードバックして授業改善に役立てている。

(2) 短期大学全体の授業改善(FD活動等)への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また、学科長等は当該短期大学の授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

毎年、大分県私立大学協会主催の教職員研修会が開催されている。この研修会には必ず半数以上の教職員が出席するようしており、私学を取り巻く様々な環境・情勢について研修を行っている。

#### F D活動等（平成20年度）

- ・ 8 月 大分県私立大学・短期大学協会教職員研修会（教職員7名参加）
- ・ 9 月 学生による前期授業評価アンケートを実施
- ・ 12月 大分県バイオテクノロジー懇談会 研修会参加（1名）
- ・ 2 月 「園芸研究」学生研究テーマについての検討会実施
- ・ 3 月 学生による後期授業評価アンケートを実施
- ・ 3 月 次年度授業「人-農業・園芸・環境関係論」実施方法についての検討会実施
- ・ 後期 授業「人-農業・園芸・環境関係論」で、1年生を対象に、プレゼンテーション手法を用いた双方向授業を実施。教員間授業公開（ピアレビュー）を兼ねる。各授業終了後に意見交換会を実施
- ・ 前期～後期 授業「園芸研究」で、2年生を対象に、プレゼンテーション手法を用いた双方向授業を実施。教員間授業公開（ピアレビュー）を兼ねる。各授業終了後に意見交換会を実施。

（3）担当授業について教員間の意志の疎通や協力体制、又は兼任教員との意志の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

毎朝、15分程度の教職員連絡会を実施している。専任教職員は学生の履修上及び生活上の諸問題、大学運営について常時情報交換を行い迅速に対応できるようにしている。

兼任教員との意志の疎通は出校日数が少ないこともあって難しい点があるが、専任教職員は兼任教員の出校時にはできるだけ情報交換をするよう努力している。

#### 【特記事項について】

（1）この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組みなど、当該学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

##### 他の教育機関との単位互換制度

「学長は教育上有益と認めたとき、学生が他の短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位15単位を限度に卒業資格を得るための単位と認めることができる（履修規則第3条）」

##### 海外研修制度

英会話、英語等の教育以外に国際的視野を広めるために授業科目「海外研修旅行」（1単位）を設けている（園芸コースは必修科目）。

平成18年度は7日間のニュージーランドでの農家でのファームステイを基本とした研修を実施した。研修旅行参加者は29名であった。

平成19年度は7日間のニュージーランドでの農家でのファームステイを基本とした研修を実施した。研修旅行参加者は20名であった。

平成20年度は5日間のシンガポールでの園芸・都市景観に関する研修を実施した。研修旅行参加者は20名であった。

##### インターンシップ制度

平成15年度から、学生の主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図り、自立心や責任感のある人材の育成を図ることを目的に、授業科目「学外実習」（1単位）でインターンシップ制度を導入している。

平成18年度は2年生3名(延べ人数)、1年生2名の合計5名の学生がインターンシップを実施した。受け入れ先は、造園会社、生花店、種苗会社である。

平成19年度は2年生2名の学生がインターンシップを実施した。受け入れ先は、種苗会社と園芸療法関連の病院である。

平成20年度は2年生3名の学生がインターンシップを実施した。受け入れ先は、種苗会社と園芸療法関連の病院である。

#### GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度の導入

平成20年度、成績をはかる基準としてGPA制度を導入した。これまでの成績評価とあわせることで、量的・質的評価が可能となっている。各学生のGPAは履習指導の他、奨学生選考、就職推薦者選考、編入学学長推薦者選考、学業奨励賞受賞者選考等の参考データ、科目履修の際の登録上限要件として利用している。

#### オフィスアワー制度の導入

平成20年度、専任教員が各学生の質問、相談等に個別に対応するためにオフィスアワー制度を導入した。

## ・教育の実施体制

## 【教員組織について】

(1) まず現在の専任教員数を記載して下さい。

大分短期大学の専任教員表

平成21年10月1日現在

学科・ 専攻名	専任教員数				設置基準で定める 教員数		助手	〔八〕	備考
	教授	准教授	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
園芸科	4	2	3	9	7 (3)		0	1	
(小計)	4	2	3	9	7 (3)		0	1	
〔ロ〕						2 (1)			
(合計)	4	2	3	9	7 (3)	2 (1)	0	1	

### 〔注意〕

1. 上表の〔イ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める教員数をいう。
2. 上表の〔ロ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数をいう。
3. 上表の〔イ〕および〔ロ〕の欄の( )には、短期大学設置基準第22条別表第1のイの備考第1号に定める教授数を記入。
4. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
5. 上表の〔八〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員(事務職員を除く)をいう。

### 〔現状の説明・点検評価〕

短期大学設置基準等を満たしている。

### 〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書(履歴書、研究業績書、担当授業科目名、その他)を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

### 〔現状の説明・点検評価〕

資格と資質を有している。

### 〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

### 〔現状の説明・点検評価〕

「大分短期大学教員選考基準」に基づき、教授会の審査を経て、適切に行われている。

〔問題点と今後の改善策〕  
特に問題点はない

(4) 下記の専任教員年齢構成表の例示を参考にして教員の年齢構成について現状を記載して下さい。

専任教員等の年齢構成表

(平成21年10月1日現在)

教員数	年齢ごとの専任教員数(講師以上)							助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢		
合計人数(8人)	2	2	1	2	1	1	52.1	30	
割合(%)	22.2	22.2	11.1	22.2	11.1	11.1			

〔現状の説明・点検評価〕  
年齢構成のバランスについてはやや高齢化の側面は否めない。

〔問題点と今後の改善策〕  
特に問題点はない

(5) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導及び(d) その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また、上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを短期大学の責任者(「学長等」)が記述して下さい。その際、過去3ヶ年程度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

- (a) 授業に関して教員は各自意欲的に取り組んでいる。
- (b) 研究活動については授業や学生指導の中で取り組んでいるが、外部からの研究費を受ける教員はいない。研究に関しては今以上に努力する必要がある。
- (c) 学生指導は学生部の指導のもと、各ゼミ教員を中心に個別指導を行っている。少人数制を生かし、科目履修から就職、資格取得、生活指導まで適切な助言、指導を行っている。
- (d) その他教育研究上の業務においては専任教員が一体となって学生を指導している。フラワーコンテストへの作品を出品したり、市民市場(大分土曜市)へ参加したりするとともに、公開講座などにも意欲的に取り組んでいる。

過去3ヶ年の教員の担当コマ数

学科	職名	氏名	18年度担当コマ数	19年度担当コマ数	20年度担当コマ数
園芸科	学長 (教授)	樋口春三	-	-	1
園芸科	教授	荻本庸夫	23	22	16
園芸科	教授	斉藤清男	2	2	2
園芸科	教授	石井 實	4	4	4
園芸科	准教授	長岡寿和	23	22	16
園芸科	准教授	横田直人	11	13	13
園芸科	准教授	摺崎 宏	21	21	17
園芸科	助教	宮原佳代	24	21	17
園芸科	助教	鍵和田又一	20	21	18
園芸科	助教	宮坂綾香	10	20	15
平均担当コマ数			17	20	14

〔問題点と今後の改善策〕  
特に問題点はない

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか。また、助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

実験実習を行う準備等のために、実験実習場に常勤の技術職員が1名従事している。

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成してください。  
校舎について、まず短期大学設置基準第31条の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また、校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載してください。さらに校舎の配置図、用途(室名)、専用、共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

〔注意〕

1. この項には(全体図、校舎等の位置を示す配置図、校地間の距離・校地間の交通手段等を含む)を準備しておいて下さい。
2. 主要校地については訪問調査の際にご案内いただきます。
3. 基準面積を算出する計算式については、表外に記載して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

校舎・校地一覧表

(平成21年5月1日現在)

	収容定員	校舎			校地			備考
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異	
大分短期大学	80人	2000 m <sup>2</sup>	2209 m <sup>2</sup>	209 m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>	1894 m <sup>2</sup>	1094 m <sup>2</sup>	
併設								
その他								
計	80人	2000 m <sup>2</sup>	2209 m <sup>2</sup>	209 m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>	1894 m <sup>2</sup>	1094 m <sup>2</sup>	

基準面積とは短期大学設置基準等、各学校の設置基準で定める面積とします。

短期大学設置基準第31条の規程による短期大学の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)は農学関係100人までの場合は2000 m<sup>2</sup>である。本学の場合、短期大学専用の校舎面積2209 m<sup>2</sup>、本学が保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足している。また校舎は授業や学生生活のために常に清掃が行われ、学内全体は清潔な環境である。修理や保全の対応も早い。

短期大学設置基準第30条の第1項「短期大学における校地の面積(附属施設用地及び寄宿舎の面積を除く)は、学生定員上の学生一人当たり十平方メートルとして算定した面積とする。」から次の通り計算した(校地の面積 = 学生定員数(= 収容定員) × 10m<sup>2</sup>)。

学生定員数(= 収容定員) = 園芸科収容定員 80名 × 10m<sup>2</sup> = 800 m<sup>2</sup>

本学の校地基準面積は、収容定員80名で算出計算式により、800 m<sup>2</sup>となるこの基準に対して本学の校地面積は表のとおり、1894 m<sup>2</sup>であり表に示すとおり、設置基準の規定を充足しており、また校地は教育環境として適切に整備されている。

(2)校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述してください。

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

(3)教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。また、その使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

パソコン室は整備されているが、学内 LAN は整備されていない。

コンピュータ台数と機種

教具名	台数
コンピュータ デスクトップ 東芝 PC	26台
レーザープリンタ A3	3台

コンピュータ デスクトップ マッキントッシュ	5台
レーザープリンタ A4	1台

〔問題点と今後の改善策〕

情報発信(シラバス、講義内容、試験情報などの発信)ができるようにすることが望ましい。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

教室の使用状況に応じて、液晶プロジェクター、テレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤー、スライド映写機、OHC、OHP、マイク、スピーカーなどを適切に設置している。授業用の機器・備品は庶務係が把握し、日々の使用・点検は教務係に依頼している。

〔問題点と今後の改善策〕

ビデオやスライド、OHPなどの利用から、パワーポイントを用いたパソコンによる授業やCD、DVDなどディスク媒体に対応できる機器・設備を整備する必要性がある。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について。

〔現状の説明・点検評価〕

(校地・校舎の安全性)

土地・建物上の安全性 定期的に点検を実施し、危険箇所は補修している。

防犯上の安全性 短期大学が保有する校地と校舎は学生や教職員の安全確保に対して、警備会社の警備員による巡回など一応整っている。

(障害者への対応)

学園生活上支障のある障害者の入学が現在までいない。また、校舎が40年以前に建てられていることもあり、障害者に対応した設備を施しがたい現状にある。

(運動場・体育館)

平松学園の医療系各種専門校と大分東明高校、向陽中学校と共用している。

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

### 【図書館・学習資源センターについて】

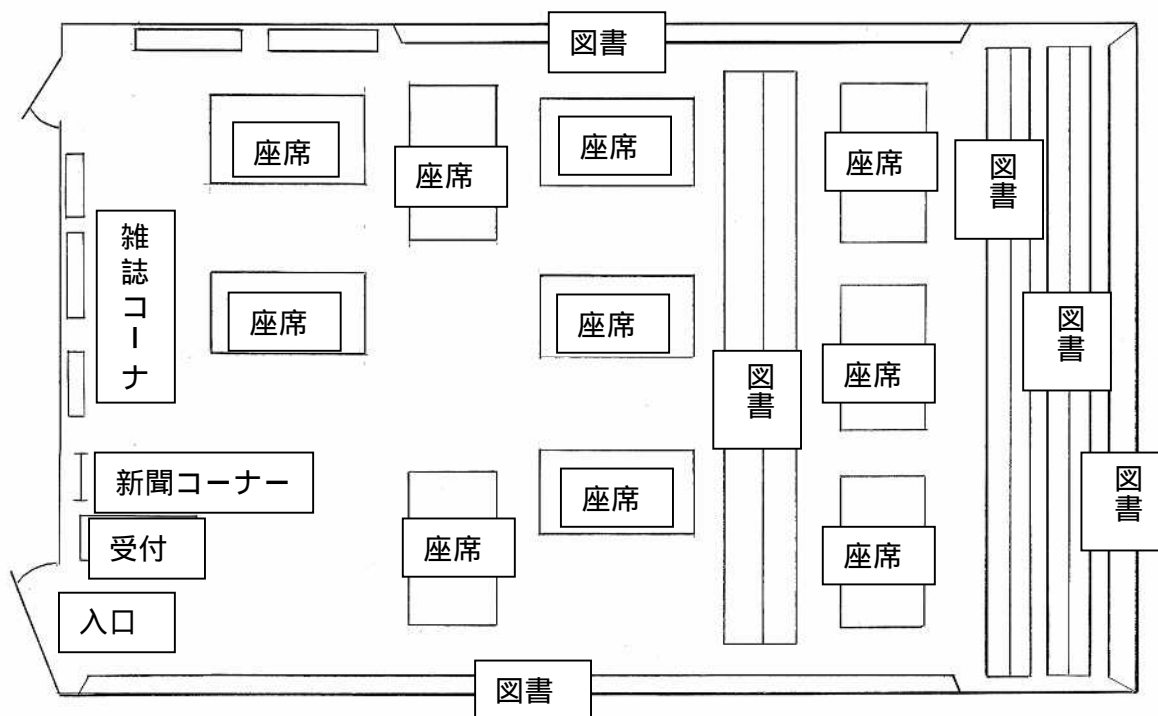
(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。

本館5階のうち3階、5階部分に図書館スペースを設けている。延床面積126.8㎡座席数は60席、利用者用コンピュータは2席、学習室は7席である。

平成20年度の図書購入費、440,884円、雑誌・新聞等資料費、262,180円、授業に関連する参考図書費は15,295円であった。購入については教員と学生から要望を募り決定している。廃棄については廃棄規程により処理することになっている。図書館は教員・事務職員が兼務し図書業務をおこなっている。

図書館の利用者用パソコンは蔵書検索を行えるようにしている。また、パソコンではインターネットの利用ができ、学生研究や就職活動の利用も多い。

図書の配置、座席の配置は図の通りである。



(2) 図書館等に備えられている蔵書数(和書、洋書、学術雑誌、AV資料数等)

図書館等蔵書一覧		平成 21 年 5 月 1 日現在	
区分	和書	洋書	計
冊(種)	11,245	2,177	13,422

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

図書館には学生が利用できる授業に関連する参考図書、一般図書、雑誌、新聞資料等を整備している。学生の平成 20 年度の図書館の開館日数は 273 日、利用者は延べ 5400 人で、貸出冊数は 213 冊であった。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携など、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

図書館からの学外への情報発信、他の図書館等との連携は現在行っていない。

**【特記事項について】**

( 1 ) この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動など、努力していることがあれば記述して下さい。

( 2 ) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

## **・教育目標の達成度と教育の効果**

【単位認定について】

(1) まず、「単位認定の状況表」の例示を参考にして、当該科目等の単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。

園芸科の単位認定の状況表

(平成20年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)					
					本試	再試等	合計	秀	優	良	可	不可	
一般教養科目	一般教育科目	社会心理	講義	21	試験・出席・レポート	76	0	76	0	38	24	14	24
		情報処理	演習	23	出席・試験	96	0	96	22	70	4	0	4
		環境化学	講義	11	出席・試験	73	0	73	0	36	18	18	27
	外国語科目	英語	講義	24	出席・試験	100	0	100	33	50	17	0	0
		英語	講義	23	出席・試験	96	0	96	35	57	4	0	4
		英会話	演習	15	出席・試験・課題	100	0	100	40	47	13	0	0
		英会話	演習	11	出席・試験・課題	91	0	91	64	27	0	0	9
	保健体育科目	心体スポーツ科学	演習	18	出席・小テスト	100	0	100	0	100	0	0	0
		心体スポーツ科学	演習	21	出席・小テスト	100	0	100	0	90	10	0	0
	専門科目	園芸総論	講義	28	試験・出席・レポート・小テスト	93	4	96	29	64	4	0	4
花卉園芸学総論		講義	28	出席・レポート・小テスト・試験	79	21	100	39	46	14	0	0	
野菜園芸学総論		講義	28	出席・試験	100	0	100	39	54	7	0	0	
果樹園芸学総論		講義	28	出席・試験	96	4	100	36	54	11	0	0	
造園学総論		講義	28	出席・小テスト・レポート	100	0	100	29	54	18	0	0	
作物学		講義	28	試験・出席	93	7	100	0	50	32	18	0	
園芸学実験実習		実習	28	出席	89	11	100	0	100	0	0	0	
園芸学実験実習		実習	28	出席	93	7	100	0	100	0	0	0	
園芸学実験実習		実習	27	出席	93	4	96	0	96	0	0	4	
園芸学実験実習		実習	27	出席	96	0	96	0	96	0	0	4	
特別講義		講義	28	出席・レポート	100	0	100	0	82	14	4	0	
特別講義		講義	27	出席・レポート	96	0	96	0	96	0	0	4	
園芸研究		実習	27	発表・課題	96	0	96	0	96	0	0	4	
野外調査		実習	28	出席・発表	100	0	100	0	100	0	0	0	
海外研修		実習	22	態度・レポート	95	0	95	0	95	0	0	5	
植物生理学		講義	29	出席・試験	79	10	90	14	59	17	0	10	
植物生態学		講義	20	出席・試験	80	10	90	10	55	25	0	10	

栽培学汎論	講義	17	出席・試験・課題	94	0	94	29	65	0	0	6
遺伝育種学	講義	16	出席・試験・課題	69	25	94	6	31	19	38	6
土壌肥科学	講義	28	出席・試験	93	0	93	21	71	0	0	7
植物病理学	講義	24	出席・試験	67	17	83	13	33	21	17	17
応用昆虫	講義	23	試験・レポート	100	0	100	26	65	9	0	0
樹木学	講義	21	試験・出席・課題	95	0	95	29	48	10	10	5
園芸療法	講義	24	レポート・出席	96	0	96	29	33	33	0	4
園芸療法	講義	20	レポート・出席	100	0	100	15	85	0	0	0
園芸材料学	講義	11	試験・レポート・小テスト	91	0	91	55	36	0	0	9
施設園芸学	講義	16	試験・レポート	100	0	100	56	31	13	0	0
切り花	講義	6	出席・試験	100	0	100	17	83	0	0	0
鉢物	講義	5	試験	100	0	100	40	60	0	0	0
花卉装飾学	講義	14	出席・レポート・小テスト・試験	93	0	93	43	14	36	0	7
野菜茎葉菜類	講義	27	出席・小テスト・レポート・試験	89	0	89	33	44	11	0	11
野菜果菜類	講義	25	出席・レポート・小テスト・試験	100	0	100	20	68	12	0	0
野菜根菜類	講義	12	出席・レポート・試験	92	0	92	33	50	8	0	8
常緑果樹	講義	19	出席・試験	58	42	100	21	32	42	5	0
落葉果樹	講義	11	レポート・試験・出席	91	0	91	27	18	36	9	9
落葉果樹	講義	2	出席・試験	100	0	100	0	100	0	0	0
造園材料計画学	講義	16	小テスト・出席	100	0	100	13	69	19	0	0
造園施工管理学	講義	5	出席・小テスト	100	0	100	20	80	0	0	0
造園維持管理学	講義	10	出席・レポート・試験	90	0	90	10	30	50	0	10
農業機械学	講義	16	レポート・試験・出席	88	0	88	44	6	38	0	13
農業経済学	講義	26	レポート・出席	100	0	100	0	69	31	0	0
造林学	講義	21	試験・出席・レポート	81	0	81	19	52	10	0	19
林業経営	講義	3	小テスト・試験	100	0	100	0	100	0	0	0
林産加工	講義	5	試験・出席・レポート	100	0	100	20	60	20	0	0
林業土木	講義	11	小テスト・出席	82	0	82	36	36	9	0	18
測量学	講義	9	小テスト・出席	100	0	100	0	100	0	0	0
樹木医学	講義	21	試験・出席・課題	81	14	95	29	48	19	0	5
環境保全学	講義	13	出席・試験	85	0	85	23	23	15	23	15
介護理論	講義	19	出席・試験	95	0	95	37	42	16	0	5
作業療法	講義	15	出席・試験	73	0	73	7	20	40	7	27
理学療法	講義	19	出席・試験	89	0	89	0	58	16	16	11
障害者福祉	講義	4	出席・試験	100	0	100	0	50	50	0	0
老人福祉	講義	5	出席・試験	100	0	100	0	40	60	0	0

地被植物学	講義	4	出席・試験	100	0	100	75	25	0	0	0
飼料作物学	講義	8	出席・試験	88	0	88	13	50	25	0	13
香りの心理	講義	12	出席・試験・課題	92	8	100	58	33	8	0	0
ガーデニング概論	講義	28	出席・試験	100	0	100	54	46	0	0	0
農業学	講義	28	小テスト・試験	100	0	100	39	36	25	0	0
畜産学	講義	4	出席・試験	100	0	100	50	25	0	25	0
畜産学	講義	5	出席・試験	80	0	80	20	40	0	20	20
デッサン	演習	14	出席・課題	93	0	93	7	50	36	0	7
ガーデンデザイン論	講義	9	出席	100	0	100	0	33	44	22	0
ガーデンデザイン論	講義	6	出席	83	0	83	17	50	17	0	17
ガーデンデザイン論	講義	5	出席	100	0	100	40	20	40	0	0
ガーデンデザイン演習	演習	9	課題	100	0	100	0	33	44	22	0
ガーデンデザイン演習	演習	6	課題	83	0	83	17	50	17	0	17
ガーデンデザイン演習	演習	5	課題	100	0	100	40	20	40	0	0
ガーデンプランニング論	演習	4	課題	100	0	100	0	75	25	0	0
ガーデンプランニング演習	演習	4	課題	100	0	100	50	25	25	0	0
色彩学演習	演習	25	出席・試験・課題	92	4	96	36	48	12	0	4
グラフィック演習	演習	16	出席	94	0	94	0	88	6	0	6
CAD演習	演習	5	出席・課題	40	0	40	0	40	0	0	60
フラワー演習	演習	7	課題作品	100	0	100	0	100	0	0	0
フラワー演習	演習	6	課題作品	100	0	100	0	100	0	0	0
フラワー演習	演習	6	課題作品	100	0	100	100	0	0	0	0
フラワー演習	演習	6	課題作品	83	0	83	67	17	0	0	17
花卉装飾学演習	演習	17	課題作品	100	0	100	0	100	0	0	0
生花	演習	9	試験・実技	100	0	100	33	67	0	0	0
生花	演習	14	試験・実技	100	0	100	50	43	7	0	0
生花	演習	12	試験・実技	92	0	92	8	83	0	0	8
生花	演習	12	試験・実技	92	0	92	17	75	0	0	8
造園製図	演習	9	出席・課題	67	22	89	0	89	0	0	11
造園製図	演習	6	出席・課題	67	17	83	0	67	17	0	17
測量学演習	演習	9	出席・小テスト・試験・実技	100	0	100	100	0	0	0	0
管理実習	実習	6	出席	100	0	100	0	100	0	0	0
管理実習	実習	24	出席	100	0	100	0	96	4	0	6
生物統計学	演習	7	出席・課題	86	0	86	0	86	0	0	14
園芸バイオ実習	実習	5	出席・課題	100	0	100	20	80	0	0	0
野外調査	実習	27	出席	93	0	93	0	93	0	0	7

	学外実習(インターンシップ)	実習	3	実習日報・報告書・終了証明書	100	0	100	0	100	0	0	0
--	----------------	----	---	----------------	-----	---	-----	---	-----	---	---	---

(2) 次に当該学科等の学科長等が、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

単位認定は、学則及び履修規則に基づいて担当教員の責任において行われている。

評価は、講義科目から演習・実習科目まで多様な科目があるので、それぞれの授業科目の形態によって評価方法が異なっている。講義形式の授業科目の単位認定は、前期・後期末の定期試験における筆記試験で認定がなされているが、筆記試験と併せて出席状況や受講態度、小テスト、レポート、課題等を加味して評価・認定を行っている場合が多い。本試験での単位取得率の平均は93%であり、概ね良好であると考えている。

単位認定については評価基準の標準化など検討すべき事項はあるが、概ね適切な評価が行われていると考えている。また、単位認定は学生の卒業や進路に関わる重要な事項であるので、各担当教員にはできるだけ単位取得率が上がるよう本試験で「不可」評価の学生については極力再試を実施するようお願いをしている。

(3) 当該短期大学の教学上の責任者である学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

単位認定の方法は、学則及び履修規則に基づいて行われており全く問題ない。単位の取得状況は概ね良好である。評価の方法はシラバスにきちんと明記されており、各担当教員により適切かつ公平に行われていると考えている。

#### 【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

平成20年度前後期の各学期末に、各授業の学生の授業の満足度に関する調査を実施した。授業評価アンケートは質問項目を全12項目とし、評価を5段階に分け、各学生が受講した授業に対する評価を行った。名前の記入は任意とした。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、当該学科の学科長等が現状をどのように受けとめているかを記述して下さい。

前期後期を通し、講義全般において、学生の出席率は概ね良好である。学生の授業に対する取り組みは積極性が見られるものが多く、特に園芸に関する授業は興味を惹かれる学生が多い。また、フラワー演習や生花、花卉装飾演習など、花を实际使い自分たちで作品を作る授業は特に熱心さが感じられた。それぞれの授業の内容はわかりやすかったと思われるが、全体的に、園芸や園芸療法に関する授業が特に学生生活に意義を成したと感じる学生が多かった。英語や英会話は編入・公務員を狙う学生に役立っていたと思われる。

各授業の担当教員の取り組み、意欲については概ね好評であった。担当教員の言葉や喋り方、声のトーンなどは教員により聞き取りやすさに多少差が見られる。板書やOHP、教科書や資料等を使う授業は、大体どれも見やすく内容を理解するのに役立ったという意見が多い。プリントなどは講義を復習するのに役立ったという声もあった。

また、授業中の私語の注意、遅刻者への対応もなされており、授業は円滑で、進度、ペースも概ね適切であると受け止めている。

(3) 同じく学科長は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

毎週水曜日に2年生は園芸研究の中で、1年生はキャリアアップセミナーの中で伝達を行っており、この時間を利用して各学生に受講した授業の評価を授業評価アンケートに記入して提出してもらっているため、回収率はかなりよいものになっている。各授業について、教科の担当教員に学生が質問や要望などいつでも聞きに行けるような雰囲気が出ており、授業中や授業以外の時間でもしっかり対応できていると受け止めている。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年の退学、休学、留年等の数を、次ページの「退学者等一覧」の例示を参考にして記載し、当該学科等の状況を明らかにして下さい。

下表に過去3ヶ年の退学、休学、留年等の数を示す。過去3ヶ年の退学者数は2名で、留年者は1名である。

園芸科の退学者等一覧表

(平成21年3月31日現在)

入学年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
学生数				
入学者数	43	28	50	
うち退学者数		1	1	
うち休学者数				
休学者の内の復学者数		1		
留年者数				
除籍者数				
卒業者数	43	26	-	

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状について記述して下さい。

過去3ヶ年の入学者に対する退学者の割合は1.7%である。退学の理由としては、平成19年度、平成20年度がともに「進路変更」であった。いずれの場合もゼミナールの担当教員が中心となり、また教職員も連携して、学業のこと、学生生活のこと、個人的・家庭的なこと、将来のことを含めて可能な限り指導に努力している。また、事前に十分な事前指導や相談の機会をもち、保護者とも直接よく相談をして結論を出している。

(3) 当該学科の等の退学、休学、留年等の現状を、学科長がどのように受け止めているかを記述して下さい。

過去3年間、数名の退学者・休学者が出ている。退学の理由は様々であり、健康や家庭の事情などやむを得ないケースもあるが、本人の選択を尊重し、できるだけ支援や協力を惜しまずに努力したい。退学者や休学者をなくすためには、学生同士の・教員との親密な関係を築き、学生生活が楽しいと思えるような環境づくりが大切であると考えている。

学友会主催の球技大会や学園祭、体育祭などの行事へは全員参加を促し、また、ゼミナールでは定期的に個別面談を実施している。保護者には毎月定期的にニュースレターを発行・送付して、学内の行事・学生生活の様子を伝えて学校との連携を図っている。

(4) 同じく学長は、当該短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

退学、休学、留年等を出さないために、入学時・進学時のオリエンテーションでの指導、学生部とゼミナール担当教員を中心とした平常時のケア、夏休みや春休みなど長期休暇時の学生動向の把握に努めている。

ゼミ担当教員をはじめ学生部と全教職員が連携して更にきめ細かいケアに努力して、退学者、留年者を出さないことが重要であると受け止めている。

【資格取得の取り組みについて】

(1)《教育の内容》の【教育課程について】(4)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別の取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得を目指した学生数、取得数、取得割合)を学科ごとに示して下さい。

(平成20年度卒業生)

資格名	取得を目指した数(人)	取得者数(人)	取得者割合(%)
園芸療法士	17	17	100
生活園芸士	24	24	100
樹木医補	20	20	100
小原流・生け花准教授免状	5	5	100
飯田深雪・アートフラワー免状専修	3	3	100
フラワーデザイナー資格	12	12	100
フラワー装飾技能士3級	11	11	100
フラワー装飾技能士2級	11	8	72.7
園芸装飾技能士3級	12	12	100
園芸装飾技能士2級	9	8	88.9
造園技能士3級	8	8	100
造園技能士2級	6	4	66.7
造園施工管理資格2級(一部)	3	3	100
測量士補	4	0	0

毒物劇物取扱者一般	6	4	66.7
危険物取扱者乙種	10	9	90.0
グリーンアドバイザー	2	3	66.7
色彩検定3級	1	1	100

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

今後導入を検討している免許・資格は特にないが、学生の要望があれば、積極的に導入していきたい。

**【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】**

(1) 学科ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況(専門職数、割合等)について記述して下さい。また、学科ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

平成20年度の卒業生において園芸関係の専門職に進学・就職した学生は80.8%であった。専門就職として4年制大学への進学をする学生は、26.9%を占めるほどになっている。これは、短大を卒業後にすぐに就職しなければならないという固定概念が希薄になり、四年制大学へ進学も視野に入れている学生も多くなっている傾向がある。また、就職するにあたり四年制大学に進学したほうがよいと考えている学生もいる。実際に専門職に就職した学生は53.9%であった。

そのほかの学生は一般企業に就職し、卒業生の19.2%を占めていた。19年度には卒業生の9.3%まで減少したが、20年度に再度20%を占めてしまったのは、園芸関係の仕事が社会の景気不安定などにより影響を受けやすく、求人なども減少したことがあげられる。また、一般企業に就職した学生が、地元での就職を強く希望することも原因としてあげられる。このことより、早く就職活動を行うことで解決できると考えられる。しかし、園芸関係への就職活動や生花店・造園業者などは求人を出すのが遅く、かつ、毎年求人があるとは限らないのが一般企業などの就職が増加してしまう要因ではないかとも考えられる。

**過去3年間における卒業生の就職別進路先割合**

		18年度(46名)		19年度(43名)		20年度(26名)	
専門職	農業系公務員	0	0.0%	2	4.7%	2	7.7%
	その他公務員	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
	生花店	4	8.7%	7	16.3%	2	7.7%
	園芸店	3	6.5%	1	2.3%	1	3.8%
	種苗会社	4	8.7%	2	4.7%	0	0.0%
	造園会社	5	10.9%	3	7.0%	3	11.5%
	医療福祉施設	2	4.3%	5	11.6%	2	7.7%

	JA	1	2.2%	1	2.3%	0	0.0%
	就農	1	2.2%	1	2.3%	0	0.0%
	その他農業関連企業	4	8.7%	6	14.0%	4	15.4%
	その他企業	10	21.7%	4	9.3%	5	19.2%
	4年制大学進学	8	17.4%	9	20.9%	7	26.9%
	その他進学	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
	研修等	1	2.2%	1	2.3%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%
	計	46	100%	43	100%	26	100.0%

(2) 卒業生に対する就職先(専門就職に限らない)及びその他の進路先(編入先等)からの評価を、短期大学全体については学長が、当該学科等については学科長等が現状をどのように受け止めているか記述して下さい。

就職先に対するアンケート調査は行ってはいないが、折に触れて採用担当者から卒業生の状況をうかがうよう努力している。卒業生の就職先から継続して求人をいただくことがあるが、これは就職先からある一定の評価を受けているともとの受け止めている。

4年制大学への編入学については、編入した学生の中に、その後より向上心をもって大学院まで進学した学生もあり、一定の評価をしていただいていると受け止めている。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート(卒業後評価)」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

平成20年7月から9月にかけて、担当ゼミ教員が平成18年度卒業生及び19年度卒業生を対象に卒業後の評価アンケートを電話にて聞き取り調査を実施した。その結果、18年度の卒業生で76.1%、19年度卒業生で81.4%の回答が得られた。

本学の卒業生の就職継続率は、半年後で91.4%であった。「短大在学中に習得した知識や技術は現在の仕事に役に立っていますか」との質問には約90%の学生がなんらかのかたちで役に立っていると回答している。

卒業後の連絡などについては、毎年11月に開催されている学園祭のときに同窓会があり、近況報告と情報交換がなされている。平成20年度からは、ホームページ上にて「同窓会だより」を公開し、学校に立ち寄った卒業生の近況報告などを掲載している。

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学の卒業生の多くは、農業共同組合(JA)、生花店、造園会社、種苗会社、冠婚葬祭会社、医療福祉施設、農業生産法人、食品会社、市場、農林系国家公務員、農林系地方公務員、大規模農業経営者(農業自営・農業後継)など直接的・間接的に植物を取り扱う職業に就き、専門性を活かしてそれぞれに社会で活躍している。卒業生の中には造園会社や生花店を起業し経営者として独立を果たした者もいる。農林系公務員は開学以来250名を超える卒業が採用されている。農林系国家公務員の中には種採用者もあり、中堅幹部としてわが国の農林行政の一翼を担っている。

このような卒業生の活躍ぶりは、社会から一定の評価を受けているものと受け止めており、本学の掲げる教育目的・目標を着実に達成しているものと考えている。

**【特記事項について】**

(1) この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

(2) 特別な事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

. 学生支援

## 【入学に関する支援について】

(1) 入学支援者に対し、当該短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なお、それらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

本学の建学の精神・教育理念は、学校案内パンフレットに学長メッセージとして記載されている。また、教育目的・教育目標や求める学生像は、学校案内パンフレットで説明し、あわせて本学のホームページにも明示している。

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO 入試など）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

入学者の選抜方針や選抜方法などについては学校案内のパンフレット、園芸科ホームページ、および入試募集要項に明示している。また、学校見学会や進学ガイダンスなど受験生と直接面談できる場ではできる限り詳細に説明し、理解を得る努力をしている。

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

組織としては入試係が対応している。日頃の受験生からの問い合わせや学校見学については入試係が中心となって対応し、全職員が補助する形式をとっている。オープンキャンパスや学校説明会については学園内の医療系専門校と共同で実施している。また、志願者や受験生には園芸科のニューズレターでの情報提供を毎月行っている。

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者（特に責任者を設けていない場合は事務局長等の事務の責任者）は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。（入学願書等を参考資料としてご準備下さい。）

現状の説明・点検評価〕

入学者選抜は指定校推薦入試、公募推薦入試 1 期・2 期、自己推薦入試、一般入試 1 期・2 期、社会人入試 1 期・2 期・3 期・4 期・5 期、AO 入試 1 期・2 期・3 期・4 期・5 期・6 期・7 期・8 期・9 期・10 期を実施している。

入学試験の出願からの流れ

出願	出願資格・書類の確認	受験票の発送	入学試験筆記・面接・小論文	採
点	合否判定（教授会）	合格書類など確認	合格書類発送	合格発表

多様な入試を行うことにより適性にあった学生を受け入れている。

また、入学試験（一般推薦・指定校推薦・自己推薦・一般・AO・社会人）の選抜は、AO 委員会、教授会を経て公正かつ正確に実施している。（入試要項参照）

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない。社会人入試の回数を、従来の3回から平成21年度入試（平成21年度入学）では5回に増やした。今後は学生募集には全職員が当たれるように指導を行い、すべての職員が受験生からの質問に正確に答えられるように研修を重ねたい。

（5）合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

入学手続き者に対しては、入学まで、短大の情報提供として毎月ニュースレターを送付している。また、アパートなどの資料を送付し、斡旋もおこなっている。入学後の学習のために、学生研究報告を送付し、興味を持ったテーマについて、レポート提出をさせている。

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

（6）入学後（入学直前を含む）入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

〔現状の説明・点検評価〕

入学者に対しては、学習、学生生活のために入学後、二日間にわたりオリエンテーションを行い、その中でシラバスなど教科目の説明、資格取得についての説明、学生自身の進路などについて、適切な指導を行っている。さらに、学生担当職員による奨学金制度と手続きに関するガイダンスをおこなっている。また、保護者については入学式の当日に、平松学園と本学の教育方針や園芸科で学ぶ内容、資格取得の方法や費用、海外研修等について説明を行っている。また、ニュースレターを毎月保護者に送付し、資格取得や特別講義、学内の行事などを伝達し、理解を得ている。

〔問題点と今後の改善策〕

特に問題点はない

【学習支援について】

（1）入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

入学時のオリエンテーション合宿、また後期開講前のガイダンスで学年ごとに科目選択のためのガイダンスを実施している。「学生便覧」や「シラバス」を活用しているので、理解はできているようであるが、ガイダンスの個別相談の際に、講義履修や取得資格について迷っている学生の相談に応じて、将来希望する進路に必要な科目、資格についてのガイダンスを丁寧に行っている。

（2）学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）を発行していれば参考資料としてご準備下さい。

（3）基礎学力が不足している学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概

要を記述して下さい。

ゼミナール制度により、少人数教育を行っているため、基礎学力が不足している学生については、英検、漢検等の検定試験受験を含め、個別に指導を行っている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。

本学では、ゼミナール制度により、少人数教育を行っているため、学習上の問題、悩みなどに関しては、ゼミナールで定期的に個別面談を行うことで、早期に解決することとしている。また、平成20年度からはオフィスアワー制度を導入し対応している。

(公務員・就職・編入学希望者に対する特別講座について)

将来公務員や就職、4年制大学への編入学を希望する学生に対しては、教養科目の学力向上のために、月曜から金曜までの放課後に国語、生物、化学、数学、英語、社会、論述などの教養科目を90分間の特別講座を実施している。長期休暇中、春季休暇中には1日4時間の対策講座を開講して、専門科目についても不足を補っている。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば記述して下さい。

ゼミナール制度により、少人数教育を行っているため、優秀な学生については、ゼミナールの実験計画、実験実施から各種検定試験受験を含め、個別に指導を行っている。

#### 【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を示して下さい。

本学は、少人数の短大であるがゆえに、教員総動員でいかなる任にあたることを旨としている。学生生活を全般的に支援する教員組織は、従来どおり、学生部がこれに当たっている。学生部は学生部長と4人の計5人の教員を主たる責任者として、内に、「生活指導」ほか7つの役割を設け、各役割の教員で対応している。役割は学生にも明確にみえるように「生活指導」や「学友会」などと銘打って、できる限り男女各1人、計2人の教員がこの任にあたるようにしている。学生個人の直接的な相談窓口は、入学から卒業までの二年間、卒論を指導するゼミナールの教員がこれに勤める体制を整え対応している。ゼミナールの教員は、学生の相談内容が全般にわたるため、学生支援のほか、教務、庶務も総括支援できるようにしている。新入学生については、入学当初、ゼミナール所属が決まるまでの期間(約1ヶ月)は、全教員が学生個人の相談窓口を勤めて対応している。実際には、1教員が数人の学生を担当し支援する体制をつくって対応している。

(2) 当該短期大学のクラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事(学園祭、短大祭等)の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

##### 1. 学友会

学生の自治活動である学友会は、学生全員によって組織され自主的に運営されている。学友会組織は役員組織として、会長1名、副会長2名、書記2名、広報2名、会計2名、会計監査2名をおき、ほかにボランティア委員(数名)、球技大会委員(数名)、その他の委員(数名)で構成されている。

主たる活動内容は、親睦会の運営、球技大会の運営、クラブ・サークル活動の窓口、ボランティア活動の窓口、短大行事のサポート運営などである。

この他にも、学園行事でもある「学園祭」、「体育祭」も学友会が中心となり、学園全体で組織する学園祭実行委員会および体育祭実行委員会の中核を担い、会の円滑な開催、議事、運営をおこなっている。

<活動内容>

1. 4月：新入生を招いて学友会メンバー紹介
2. 5月：新入生歓迎会・在学生徒の交流親睦会・体育祭
3. 7月：学園祭実行委員会・体育祭実行委員会の組織結成および議事運営、球技大会
4. 9月：球技大会
5. 10月：学園祭実行委員会・体育祭実行委員会の議事運営
6. 11月：学園祭
7. 12月：学友会交代式、球技大会
8. 3月：送別会

## 2. サークル活動

本学のクラブ活動は、原則として同好会（愛好会）といったサークル活動の意味合いでなされている。以前には、クラブ活動はおこなわれていたが、短大の二年間という宿命的な活動期間の制約からか、先輩から後輩へと伝統を継続していくことが困難である。本学では、単年度限りのサークル活動を、学生の自主性、協調性を重んじる意味で、また学生生活の充実をはかる意味において教員一体で支援している。そのため、本学では単年度限りの同好会の結成が主流となっている。

平成20年度は運動同好会、茶道同好会、花き同好会が結成され活動した。原則として、本学のサークル活動は学友会の傘下に属して運営されている。

## 3. 学園行事

本学では、学園祭、学園祭前日および体育祭の当日において、準備や運営は、全学生と全教員が協力しておこなっている。学園祭、体育祭とも学園内の付属の専門学校との共同開催で、交流・親睦もかねている。体育祭については健康増進もかねている。

### 学園祭

学園祭は、本学を中心に、併設の医療系専門学校7校と協同で平松学園学園祭として、「学園祭実行委員会」を組織し、開催・運営している。毎年、その準備は7月からスタートし、直前まで打ち合わせを行っている。平成20年度は11月2日に開催した。本学は、社会に巣立つ前に、協調性を身につけて欲しい理由で、全学生について、一人1つ以上の係を担当することを原則として義務付けている。

### 体育祭

平松学園・体育祭は、学園祭同様、本学を中心に、付属の専門学校と共同で「体育祭実行委員会」を組織し、開催・運営している。準備は、学園祭同様におこなっている。平成20年度は5月9日に開催した。本学は、コミュニケーション能力、協調性を身につけることを目標の一つに掲げ、学生全員参加を原則とし、一人一競技以上に出場することとしている。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお、訪問調査の際にそれらをご案内いただきます。

A32 教室、A38 教室、A42、A55 教室を学生の休息のための部屋としている。これらの部屋では開校時間内は自由に飲食ができる。A41 教室、A43 教室は昼休みのみの飲食を許可している。保健室は2F に設置している。売店は学園売店を共用している。食堂はないが、昼食のメニュー表を準備し注文形式で対応している。

(4) 当該短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学

のための便宜の概要（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を示して下さい。

女子寮は学園の寮（大分市内大洲寮：民間の寮を借り上げている）を使用し、本学生用として三部屋を確保している。原則として、女子学生の入寮希望者は全員が入寮できるようにしている。下宿・アパート等の宿舎の斡旋は、学生の要望があれば入学手続き後に案内送付している。

現在、通学用バスの運行は、自転車を利用する学生がほとんどで、スクールバスを利用する学生が全くいなくなったので休止している。学内の駐輪場のスペースを増やした。

（５）評価を受ける前年度の日本育英会等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また、当該短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

平成 18 年度実績

本学奨学金

奨学金名称	採用人数	貸与額
平松奨学生	4 名	入学金 + 授業料計 1,100,000 円 × 4 名分
合計	4 名	

外部奨学金

日本学生支援機構

種類	採用人数	貸与月額
第 1 種奨学金（利息なし）	6 名	自宅通学 52,000 円、自宅外通学 59,000 円
第 2 種奨学金（利息あり）	14 名	30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円より選択
合計	20 名	

種類	採用人数	貸与月額
北九州市奨学資金奨学生	1 名	
壽崎育英財団	1 名	10,000 円（支給）

平成 19 年度実績

本学奨学金

奨学金名称	採用人数	貸与額
平松奨学生	6 名	入学金 + 授業料計 1,100,000 円 × 4 名分 授業料のみ 860,000 円 × 1 名 後期授業料 430,000 円 × 1 名
合計	6 名	

外部奨学金

日本学生支援機構

種類	採用人数	貸与月額
第 1 種奨学金（利息なし）	4 名	自宅通学 52,000 円、自宅外通学 59,000 円
第 2 種奨学金（利息あり）	7 名	30,000 円、50,000 円、80,000 円、100,000 円より選択
合計	11 名	

種類	採用人数	貸与月額
壽崎育英財団	1 名	10,000 円（支給）

平成20年度実績

本学奨学金

奨学金名称	採用人数	貸与額
平松奨学生	29名	入学金+授業料1年分計1,100,000円 × 27名分 (後期より2名追加 計29名)
合計	29名	

外部奨学金

日本学生支援機構

種類	採用人数	貸与額
第1種奨学金(利息なし)	4名	自宅通学53,000円、自宅外通学60,000円 予約採用2名 在学採用2名
第2種奨学金(利息あり)	14名	3万円、5万円、8万円、10万円、12万円より選択 予約採用7名 定期採用7名(春6名 秋の臨時採用1名)
合計	18名	

平成20年度の予約奨学生は第1種2名、第2種7名の計9名であった。4月14日在学採用希望者に説明会を行った。出席者10名のうち、1名は2年生で、1年間奨学金を利用せず生活してみたが、編入学試験を控え、アルバイトを減らすため、また資格試験の花材代がかかることなどから希望するという事であった。平成20年度は、1、2年生希望者全員が採用された。また、1年生の希望者のうち、社会人2名は第1種、第2種併願を希望したが定員の関係で2名とも第2種のみでの採用となった。日本学生支援機構一次採用に申し込みをした学生は、内示数9名(第1種2名、第2種7名)に対して、希望者全員(第1種2名、第2種6名(2年生1名))が採用された。また、今年度は秋に臨時採用があり、編入学希望者でアルバイトを減らしたいという学生1名が応募し、第2種採用になった。また、社会人2名は今年度中に第2種奨学金の増額を申請した。

・平成20年度奨学金決定したもの(平松奨学生を除く)

日本学生支援機構・・・

第1種・・・予約採用2名 在学一次採用2名

第2種・・・予約採用7名 在学一次採用6名

種類	採用人数	貸与額
宮崎県育英資金奨学金	0名	自宅外通学39,000円
壽崎育英財団	0名	月額1万円支給

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

学生の健康管理は、毎日の出欠状況を重視し、学生本人と教員間で連絡を密にとりあっている。具体的には、毎時間、講義ごとに出欠をとり、出欠状況を把握している。朝から休む学生については、欠席する理由を学校に連絡し、欠席届を提出するよう指導している。本学が小人数の短大であり、全学生に目が行き届くこと、二十歳前で親元を離れてきている県外からの学生が多いゆえに健康管理を重んじていること、専門職業人・社会人としての事前教育も重んじていることから、学生との連絡を徹底している。これにより、学生個々の健康管理は日々把握できている。また、平成20年度は、必修科目の「園芸研究(2年生)」、「キャリアアップセミナー(1年生)」の時間を利用して、定期的に面談を実施し全学生の健康管

理・メンタルケアをカバーした。

セクシャルハラスメントについては、学内生活で、特に女子学生が悩まないように、女性の教員および事務員を選任して相談窓口として配している。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

事務・教職員室に一括して施錠し、保管・保護している。

### 【進路支援について】

(1) 進路状況表の例示を参考にして、過去3ヶ年の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また就職者一覧表の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成20年度の企業等からの求人件数は86件であった。非常に厳しい就職環境の中、教職員と学生が協力して取り組んだ。国家公務員種(林業)に2名が合格し採用された。本学で学んだ知識や経験を直接的に活かしたいという学生の希望が多いため、約8割の学生が公務員の他、園芸店・生花店・造園会社・福祉施設など農業・園芸に関連する企業に就職している。学校で斡旋した就職件数が低いので今後は求人開拓を積極的に実施しなければならない。また、ここ数年、4年制大学編入学希望者が多くなっている。

平成18年度～20年度 園芸科の就職状況表

(平成21年3月31日現在)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
(a) 卒業生数	46人	43人	26人
(b) 就職希望者数(割合(b)÷(a))	35人(76.1%)	32人(74.4%)	19人(73.1%)
(c) うち学校で斡旋した就職者数割合(割合(c)÷(b))	11人(31.4%)	9人(28.1%)	9人(47.4%)
(d) うち自己開拓分の就職者数割合(割合(d)÷(b))	24人(68.6%)	23人(71.9%)	10人(52.6%)
(e) 不明・無業者数割合(割合(e)÷(a))	0人	0人	0人
(f) 進学者数(4年制大学編入学)(割合(f)÷(a))	8人(17.4%)	9人(20.9%)	7人(26.9%)

(2) 学生の就職を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を記述して下さい。

本学の進路支援は、学生部就職担当教員と各ゼミナール教員、事務職員が連携して行っている。毎月1回、ゼミナール教員は所属学生との進路面談を行うほか、必要に応じてその都度個別にも進路指導を行っている。大型連休や夏期休暇、冬期休暇直前等には進路希望調査を行っている。進路希望調査はゼミナール毎に面接とアンケートにより行い、アンケートは就職担当教員に提出してもらっている。アンケートは進路活動状況表にまとめ上げられ、各教職員に配布、全教職員の間で情報交換を行って全学的に学生の進路支援をしている。

平成20年度からは、社会人に必要な基礎的な態度・マナー、知識、能力を総合的に習得することを目的に、新たにキャリアアップセミナー(各1単位、必修)を授業に取り入れている。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報を提供しているかを記述して下さい。

本学3階フロアーの一角に就職資料コーナーを設置し、学生に対し就職関係の資料の閲覧ができる環境を提供している。また、個々の学生に対して進路希望調査結果をもとに希望進路に合致した求人を紹介したり、各県で実施される企業合同説明会等の紹介を行ったりしている。

(4) 過去3ヶ年の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように

受け止めているかを記述して下さい。

就職を希望する学生は、ほぼ希望にそった職種に就職している。専門を活かした職業に就くことが第一と考えており、進路支援は概ね成果を出していると考えている。ただ、新規園芸分野の求人開拓が望まれるところである。

学生の就業意欲、就職活動に対する意欲が年々低下する傾向が見受けられるので、就業や働くことの意義などについて、今後、保護者とも連携しながら指導を行っていく必要があると考えている。

(5) 過去3ヶ年の進学(4年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績を示し、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

平成17年度の進学者は6名であり、4年制大学が5名、その他進学が1名であった。

平成18年度の進学者は11名であり、4年制大学が8名、その他進学が2名であった。

平成19年度の進学者は9名であり、4年制大学が9名、その他進学が0名であった。

平成20年度進学者は7名であり、4年制大学が7名、その他進学が0名であった。

進学状況(平成17年度)

	人数	進路
4年制大学編入学	5名	鹿児島大学 農学部(1名) 佐賀大学 農学部(1名) 島根大学 生物資源科学部(1名) 岐阜大学 応用生物科学部(1名) 東京農業大学 国際食料情報学部(1名)
専門学校進学	0名	
その他進学	1名	岐阜大学 農業別科(1名)
海外留学	0名	

進学状況(平成18年度)

	人数	進路
4年制大学編入学	8名	島根大学 生物資源科学部(1名) 岩手大学 農学部(1名) 佐賀大学 農学部(2名) 山口大学 理学部(1名) 長崎大学 環境科学部(1名) 長崎総合科学大学 人間環境学部(1名) 東京農業大学 農学部(1名)
専門学校進学	1名	
その他進学	1名	静岡県立農林大学校 研究部
海外留学	0名	

進学状況（平成19年度）

	人数	進路
4年制大学編入学	9名	佐賀大学 農学部（5名） 島根大学 生物資源科学部（2名） 東京農業大学 地域環境科学部（1名） 南九州大学 園芸学部（1名）
専門学校進学	0名	
その他進学	0名	
海外留学	0名	

進学状況（平成20年度）

	人数	進路
4年制大学編入学	7名	佐賀大学 農学部（1名） 島根大学 生物資源科学部（2名） 宮崎大学 農学部（1名） 鹿児島大学 農学部（1名） 長崎大学 環境科学部（1名） 東京農業大学 農学部（1名）
専門学校進学	0名	
その他進学	0名	
海外留学	0名	

近年、4年制大学への編入学希望者が増加傾向にあり、編入学希望者に対する進路指導は極めて重要であると認識している。毎年オリエンテーションでは全学生に編入学に関するガイダンスを実施し、希望者には具体的な指導と支援を行っている。

進学希望者に対しては、毎日放課後（月～金）と夏期休暇中、冬季休暇中、春期休暇中に対策講座を開講している。放課後の対策講座は教養科目であり、国語、数学、化学、生物、英語、社会、論述科目を開講している。夏期休暇中、冬季休暇中、春期休暇中は教養科目に加えて農林関係の専門科目も開講し指導を行っている。各科目指導は専任教員が分担している。また、面接指導や過去問題に対する指導もゼミナール担当教員が中心となって個別に行っている。

なお、農林系の公務員を志望する学生、就職を希望する学生についても同様に指導・支援を行っている。

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年の留学生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はどのような方法、体制で行なっているかを記述して下さい。

多様な学生の受け入れ状況（平成18年度～平成20年度）

種別	平成18年度	平成19年度	平成20年度	計
留学生（人）	0	0	0	0
社会人（人）	2	0	4	4
帰国子女（人）	0	0	0	0
障害者（人）	0	0	0	0
聴講生（人）	0	2	0	2

\* 社会人：社会人入試で受験し、入学した者

社会人に対する学習支援、生活支援はゼミナールによる個別の支援を基本としている。平成20年度入学者より、学園独自の奨学金制度を、社会人を含めた希望者全員に適用している。

【特記事項について】

(1) この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば成績不良者への支援、長期欠席者への支援、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

. 研究

## 【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」の例示を参考にして過去3ヶ年の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

平成18年度～20年度 専任教員の研究実績表

学科名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
園芸科	樋口春三	教授			0		有	有	
	荻本庸夫	教授			1		有	有	
	長岡寿和	准教授			1		無	有	
	横田直人	准教授			1		無	有	
	摺崎宏	准教授			1		有	有	
	宮原佳代	助教			1		有	有	
	鍵和田又一	助教			1		無	有	
	宮坂綾香	助教			1		無	有	

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

現在は、教員個人の研究活動の公開はしていない。

(3) 過去3ヶ年の科研費の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況を一覧表にして下さい。

科学研究費補助金の獲得は過去にはあるが、過去3ヶ年の期間に限ると調達実績はない。各教員に毎年情報提供を行い、研究費の獲得に努めている。

(4) 学科ごとのグループ研究や共同研究、当該短期大学もしくは当該学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

平成20年度、全専任教員で教授方法の改善に関する研究プロジェクトを立ち上げた。授業「人・農業・園芸・環境関係論」では、1年生を対象に、プレゼンテーション手法を用いた双方向授業を実施。教員間授業公開（ピアレビュー）を兼ね、各授業終了後に意見交換会を実施した。また、授業「園芸研究」では、2年生を対象に、プレゼンテーション手法を用いた双方向授業を実施。教員間授業公開（ピアレビュー）を兼ね、各授業終了後に意見交換会を実施した。

### 【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度額等が記載されているもの）を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお、規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年の決算書から研究に係る経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等）ごとに抽出し一覧表にして下さい。

研究費（研究旅費）についての支給規程はないが、学会等の出張旅費に関しては、申請により全額支給されている。研究経費も申請制になっている。

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要について説明してください。なお、過去3ヶ年の研究紀要。論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

教員の研究成果を発表することについては確保されている。研究紀要は不定期に発行されている。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、前年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

教員の研究に係る機器、備品、図書等については、その都度申請することとなっている。

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい、なお、訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

各教員に研究室（8㎡）が整備され、1Fに実験室（138.9㎡）がある。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

春季、夏季、冬季の休業日を研修日とすることができる。

### 【特記事項について】

(1) この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

・ 社会的活動

## 【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取り組みについて】

（１）当該短期大学の社会的活動への取り組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、当該短期大学ではどのように考え、また今後どのように取り組む予定かを記述して下さい。

地域に根ざし、地域に貢献し、地域と共に生きる短大であることを重要な使命のひとつとしている。

本学の社会的活動の取り組みのひとつに、大分市商工会議所の主催する市民市場（大分土曜市）がある。毎月第二土曜日に夏季は午前9時から午後2時まで、冬季は午前10時から午後3時まで、ミカン、野菜、花苗など各農場の生産物を販売し、学生の販売実習として役立てている。

また、毎月第3土曜日には園芸に関する公開講座（グリーンアカデミー）を行っている。その他、7月には毒物劇物取扱者試験対策講座（計6回）、9月と11月に園芸療法公開講座を行っている。

（２）当該短期大学の社会人受け入れの状況については、既に《学生支援》の「多様な学生に対する支援について」の記述例(2)で報告いただいておりますので、ここでは生涯学習の必要性が高まる中で、当該短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

本学では、地域社会への寄与の一環として、一般入試とは別に社会人枠を設けて社会人入試制度を実施している。

（３）過去3ヶ年の当該短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

地域社会に向けた公開講座は、グリーンアカデミー（年12回）、園芸療法講座（平成15年度1回、平成16年度年4回、平成17年度以降年2回）、毒物劇物公開講座（年6回）を実施している。内容は以下のとおりである。

### ・グリーンアカデミー

グリーンアカデミーは、昭和51年6月に園芸科開設10周年を記念する行事として始まった園芸やガーデニングを学ぶ地域社会への公開講座である。毎月1回第3土曜日に開講されている。

### ・毒物劇物取扱者試験対策講座

毎年夏に実施されている毒物劇物取扱者試験対策として開講されている公開講座で、試験の前6日間、夜間に行われている。

### ・園芸療法公開講座

園芸療法を学ぶのを目的として平成15年3月に始まった公開講座である。

### ・電話などによる園芸相談

グリーンアカデミー受講者や一般の方、またNHK大分放送局などからの電話や直接の持ち込みなどによる園芸相談に答えている。

### ・地元紙・大分合同新聞への園芸記事の掲載

2週間に1回掲載、園芸に関するアドバイス、園芸普及が目的。

### ・地元テレビ・ラジオ出演、取材対応

OBSラジオ出演、TOSテレビ出演、OBSテレビ出演

地域社会に向けた公開講座等（平成17年度～平成20年度）

年度	グリーンアカデミー	園芸療法	毒物劇物	電話などによる園芸相談等
平成17年度	36名	38名	11名	21件
平成18年度	27名	37名	7名	14件
平成19年度	24名	20名	4名	9件
平成20年度	33名	19名	13名	20件

（4）過去3ヶ年の当該短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

大分市商工会議所の主催する市民市場（大分土曜市）に学生と教員がともに参加し、実験実習場で生産した農産物を販売している。

【学生の社会的活動について】

（1）過去3ヶ年の学生による地域活動、地域貢献或いはボランティア活動等社会活動の状況を記述して下さい。

平成18年度	事業名	連携機関	人数
4月	青年（学生）赤十字奉仕団連絡協議会	日本赤十字社大分県支部	4名
6月	大分県学生献血推進協議会全体研修会	大分県赤十字血液センター	なし
10月	学生対象赤十字ボランティア養成講座	日本赤十字社大分県支部	2名
7月	サマー献血キャンペーン	大分県赤十字血液センター	なし
7月	学生・高校生対象赤十字幼児安全法講習会	日本赤十字社大分県支部	なし
10月	大分県学生献血推進協議会総会	大分県赤十字血液センター	なし
12月	学生クリスマス献血キャンペーン	大分県赤十字血液センター	5名
12月	大分県青年赤十字奉仕団連絡協議会研修会	日本赤十字社大分県支部	なし

平成19年度	事業名	連携機関	人数
5月	青年赤十字奉仕団連絡協議会	日本赤十字社大分県支部	3名
6月	大分県学生献血推進協議会全体研修会	大分県赤十字血液センター	なし

6月	学生対象赤十字ボランティア養成講座	日本赤十字社大分県支部	なし
6月	マ-献血キャンペーン「大分学生献血サ-ター」	大分県赤十字血液センター	2名
7月	学生対象赤十字ボランティア養成講座	日本赤十字社大分県支部	なし
10月	大分県学生献血推進協議会総会	大分県赤十字血液センター	1名
12月	学生クリスマス献血キャンペーン	大分県赤十字血液センター	1名
2月	大分県熊本県学生献血推進協議会合同研修会	大分県赤十字血液センター	1名

平成20年度	事業名	連携機関	人数
4月27日	大分県青年赤十字奉仕団連絡協議会	日本赤十字社大分県支部	12名
5/31 - 6/1	大分県学生献血推進協議会全体研修会	大分県赤十字血液センター	なし
6/28, 29	学生対象赤十字ボランティア養成講座	日本赤十字社大分県支部	なし
7/19, 20	マ-献血キャンペーン「大分学生献血サ-ター」	大分県赤十字血液センター	なし
7/26, 27	高校生・学生対象赤十字幼児安全講習会	日本赤十字社大分県支部	なし
8/9, 10	高校生・学生対象赤十字幼児安全講習会	日本赤十字社大分県支部	なし
10月13日	大分県学生献血推進協議会総会	大分県赤十字血液センター	なし
12月14日	学生クリスマス献血キャンペーン	大分県赤十字血液センター	なし
12月7日	赤十字防災ボランティア養成講座(初級編)	日本赤十字社大分県支部	なし
3月3日	介護老人保健施設ケアポート湊和「味噌作り」	ケアポート湊和	5名

(2) 当該短期大学では学生の地域活動、地域貢献或いはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティアに関しては、教育目標達成のため、ボランティア活動を奨励している。ボランティア活動を実践した学生に単位を認定する制度がある。

【国際交流・協力への取り組みについて】

(1) 当該短期大学の社会人受け入れの状況については、既に《 学生支援》の「多様な学生に対する支援について」の記述例(1)で報告いただいておりますので、ここでは過去3ヶ年の在籍中の学生の海外教育機関等への派遣(留学 長期・短期 を含む)の状況を記述して下さい。

在籍中の学生の海外教育機関への派遣は長期留学、短期留学を含め、現在のところ、実施していない。

(2) 過去3ヶ年の当該短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

平成18年度、平成19年度は2月にニュージーランド研修を実施した。ニュージーランド研修では、南島オークランドを中心に植物園、ガーデンなどを見学し、ニュージーランドのガーデニングに関する講義を受講した。車で1時間程度の町ケンブリッジでニュージーランド農家への3泊4日のファームステイを実施した。このファームステイにより、海外のガーデニングや農業について学ぶだけでなく、異文化交流により国際人としての素養を身につける良い機会になった。

平成20年度はシンガポールへ研修旅行を実施した。日程は4泊5日で、ラン園、国立植物園を研修し、現地大学生との国際交流を行った。

(3) 過去3ヶ年の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

過去3ヶ年、教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の実績はない。

【特記事項について】

(1) この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育など、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

. 改革・改善

### 【自己点検・評価について】

(1) 当該短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか。また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

平成3年に大学設置基準が改正され、自己点検・自己評価の努力義務が課せられた。本学ではこれに対応し、平成9年3月に「大分短期大学自己点検・自己評価に関する規則」を制定して自己点検・自己評価協議会を発足。同年12月には「自己点検・評価のための小委員会」を設置して12の小委員会を開き活動を開始した。

また、平成11年には短期大学設置基準の改正により導入された「自己点検・評価」に対応し、教員間での授業参観を行って授業研究を行うとともに、教員自らによる授業の自己評価・点検も実施した。さらに、平成12年度には点検項目を設定して教育内容の分析と評価を試みるとともに、対応策を検討して取りまとめた。平成15年度からは学生による授業評価アンケートを実施し、教員自ら実施する授業の自己評価・点検と併せて教育の質の向上に役立たせている。平成20年度は、発展的に「自己点検・評価委員会」を設置し現在に至っている。

(2) 過去3ヶ年の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配布先の概要を記述して下さい。なお、過去3ヶ年にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

過去3カ年(平成17年度、平成18年度、平成19年度)の自己点検・評価報告書を発行している。自己点検・評価報告書は、図書館にも保管し一般に公表している。報告書の外部機関への配布は行っていないが、全国の農業・園芸高校を中心に広く公表していく必要があると考えている。

### 【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 前年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

大学の自己点検・評価の実施には全教職員が現状・課題について常に共通の認識をもち、取り組むことが必要であると考えている。本学は1学年の定員が40名の小さな短期大学で教職員数も少ないことから血の通った温かい大学教育・運営を心がけている。大学教育・運営に関する情報交換が互いに密にとれる職場環境にあり、全教職員が一丸となって自己点検・評価の実施に取り組んでいる。

(2) 前年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

自己点検・評価報告書は、平成11年度から刊行している。報告書は各教職員に回覧して内容の周知徹底を図り、自己及び大学教育・運営の改善につなげるべく努力をしている。学生による授業評価のアンケート結果については各教員にフィードバックし、授業の教授法の改善において積極的な活用をしてもらっている。

### 【相互評価や外部評価について】

(1) 前年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

相互評価及び外部評価は、現在のところ行っていない。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

相互評価や外部評価を実施するための組織、規定等の整備は現在のところ行っていない。

### 【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

自己点検・評価委員会を中心に、第三者評価の実施準備にあっている。第三者評価においては、その点検内容は短期大学のみならず、学園全体にわたって求められているので、その実施に当たっては全学をあげた体制で取り組んでいる。

実際の点検作業においては、短期大学基準協会の第三者評価に係わっている本学の ALO と評価員が自己点検・評価委員会のメンバーが中心となっている。また、必要に応じ、各種委員会メンバーが参画する体制で実施している。学内の連絡・調整は ALO が行っている。

(2) 第三者評価を迎えるにあたっての当該短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及び ALO の決意をそれぞれ記述されても結構です。

学長

本学の建学の精神「意志あるところ道あり」をもとに、教育理念は「実学主義」を重んじ、豊かな発想力と実践力を磨くことが根幹で、継続的な学習をするために、PDCA サイクルを確立することに努力し、着実な成果の達成を目指している。これに加えて、第三者評価を受けることにより、本学独自のシステムだけでは見落としかねない側面を補完することができる。さらに、高等教育機関に相応しい教育環境の維持・発展のためにも積極的に第三者評価に取り組んでいきたい。

ALO

常に自己点検・評価をしっかりと行っておけば、自らの手で問題を発見し、改良・改善・改革を行うことが可能であるが、さらにこの第三者評価制度を利用することにより、組織外の第三者から詳細なチェックを受ける機会を手に入れることが可能である。大変な緊張を強いられる制度ではあるが、本学はこの制度を積極的に活用し、従来であれば見過ごしていたかもしれない諸問題にも取り組み、教育・研究・運営など事業に、きめ細かで地道な努力していく覚悟である。

### 【特記事項について】

(1) この領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。